

全姉連会報

姉属性専門誌 9

ZEN-ANE-REN PRESENTS
ELDER SISTER ONLY MAGAZINE

Uesugi
Mihato

世界で一番、
《弟》を愛してる——。

Anjoh
Marine

Hoshinomiya
Mikage



全姉連会報 第9号

【今号の特集】

ちよつと えっちな 姉ノベル祭り！！

お姉ちゃん系ライトHノベル12本一挙レビュー

- 『好き好き大好きお姉ちゃん～ベタ甘☆カフエ同棲』
- 『あねてい～お姉ちゃん先生は弟専用』
- 『あねもね! お姉ちゃんパラダイス』
- 『あね忍～お姉ちゃんはくノーなんだぞ!』
- 『あまえて 騎士ねえ様』
- 『お姉さんはサンタクロース!』
- 『お姉さんが診てアゲル』
- 『お姉さんデイズ～お嬢様とメイドたちの誘惑』
- 『お姉さんと特訓中!』
- 『隣りのお姉さん』
- 『キヤリあね。～お姉ちゃんは下着デザイナー』
- 『ごくあね～お姉ちゃんは四代目』

姉ゲー

『おねいお姉さん! ～弟を誘惑しなさいっ～』(Lilith)

祓魔師のツンツンお姉ちゃん。弟を誘惑するなんて…と困惑する姉の本心は？

姉ゲー

『ボイン姉妹の個人授業』(Frill)

姉3人に妹1人の大家族。お姉ちゃん達の熱い夜の個人授業。

姉ゲー

『しあをー☆あきーぬ ～お姉ちゃんとのシカをについて～』(M de PINK)

お姉ちゃんと一緒にエッチな指令をこなすうち、姉と弟の心はいつしか重なり…。

表紙 姉月恩先生による、空城万里音お姉ちゃん(『しあをー☆あきーぬ』)&星之宮
御影お姉ちゃん(『影ニ光 シヤドウ・ライト』)&上杉美鳩お姉ちゃん(『君が主
で執事が俺ぞ』)

【いつものお約束】

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。絵や文章の出来は二の次です。



好き好き大好きお姉ちゃん

ベタ甘☆カフェ同棲

著者	青橋由高
イラスト	七瀬葵
発行	フランス書院美少女文庫

食べちゃいたいくらい、だ〜い好き☆

超ブラコンお姉ちゃん・斗和子との激甘ラブラブな同棲生活！

いっしょにお風呂、毎日抱き抱き……そのうえ、お姉ちゃんと初体験しよ☆なんて言われたら……どんどん深みにはまっちゃう？制服プレイ、校内エッチ、連続絶頂！お姉ちゃんは幸せにゃ〜☆

■大御所の本気！

美少女文庫の姉萌え部長・青橋先生が、甘いブラコンお姉ちゃんを「欲望の限り」書いたという本作。その言葉に嘘偽りなし。むしろやり過ぎ？

先生はこれまでも魅力的な姉ノベルを書かれていましたが、甘甘ブラコン姉部門では桁外れのお姉ちゃんが登場。美少女文庫史上、いやライトHノベル史上間違いなく名を残す甘甘姉作品に仕上がっていました。

■オールスーパー弟タイム！

小さい頃に両親の再婚で生まれた1組の姉弟。真性ブラコン姉の斗和子お姉ちゃん（23歳）は、7つ下の暁（ひかる）君をるーくんと呼んで猫可愛がり。かねてからの夢だった喫茶店の開業と共に弟と二人っきりの同棲を始めてから、ブラコン熱はさらにエスカレート。はあっ……るーくん……かーいーよお……と四六時中夢心地のお姉ちゃんの姿が綴られています。

筆者は姉ノベルを読む時、気に入ったブラコンシーンには付箋を付けるのですが、今回は序盤早々でやめました。ほぼ全ペー

ジ付けることになるなんて思わないって！

本書は、弟が姉を想う気持ち以上に、姉が弟を想う気持ちとその言動の面白さが主題になっています。弟のことが好き過ぎてどうかしちゃっているお姉ちゃんを見るのが何より好きな弟ならば悶絶必死。裸で添い寝、弟の洗濯物でハアハア、弟の学校に付いていき悪い虫がいないかの偵察は当たり前。弟の寝顔鑑賞ついでに「お姉ちゃんのこと好きになる…」と囁いてシスコン洗脳。弟が欲求不満で浮気しないよう“お姉ちゃんおかずセット”を与えて、姉以外で欲望解消するのを防止。喫茶店の女性客と他愛のない会話をしようものなら、夜はお姉ちゃん裁判が開廷され、ヤキモチ裁判長が冤罪の弟被告人に極甘判決を言い渡す。いつものじゃれあい・触りあいではなく、ついに一線を越えようとするベッドの上、弟にマウントポジションを取られると落ち着かなくなり、逆に弟を組み敷いて「うん、やっぱりこっちの方が落ち着く。弟は押し倒すものだよねっ」とにこにこ顔。

なお、弟は女装してばれないほど線が細く、か弱いタイプのシスコン弟。二人揃って救いようのない姉弟カップルなのでした。

■ブラコンシスコン以外お断り！

ブラコン姉慣れしているはずの小弟でも頭を抱えた問題作。誇張抜きに、ほぼ全ページお姉ちゃんのブラコン描写+弟のシスコン描写一色。姉萌え初心者にも玄人にも絶対の自信をもって勧められる1冊です。



あねてい

～お姉ちゃん先生は弟専用

著者	上原りょう
イラスト	Yuyi
発行	フランス書院美少女文庫

「綾ネエは、もうあなたのモノよ！」
教壇で英語を紡ぐ唇が××を包みこみ、
「私だって、初めてなんだから……」
完璧超人な姉から処女を捧げられる！
学校では厳しく、ウチではあまあま、綾瀬先生は誰にも
言えない秘密の恋人。
東光院財閥を引き継ぐためのスパルタ授業が、甘くて☆
なラブレッスンへ！

■甘々クールな姉ティーチャー

家ではお姉ちゃん、学校では先生。現実ではほとんど聞いたことがなくても、二次元ではごく普通の設定。本作は、さらに大財閥の有能な役員という肩書きまで付して、完璧お姉ちゃんの態勢で弟読者を迎え入れてくれました。

■お姉ちゃん？先生？

主人公竜之介は、大財閥トップである祖父を持つ家に生まれるが、幼い頃両親が蒸発し施設に預けられていたところ、本家に引き取られ厳しく教育されたり、かと思えば再び放り出されたりと、複雑な過去を持つ高校生。中学生の時に引き取られた家で主人公を見守り育ててくれたのは従姉の綾ネエこと綾瀬お姉ちゃんだった。…これでもずいぶん端折ったんですが、1冊読み切りの姉ノベルにしては背景が複雑過ぎかともっと簡単にまとめて、その分を姉と弟らしいエピソードに充てるなどして欲しかったものです。また、洗濯機から姉の下着を拝借して欲望を吐き出す、弟の切なる思い

を「男が女に抱く恋情」などと汎用的な言葉でまとめずに、お姉ちゃん好きな弟の気持ちならではの表現が出来なかったかなあ。

家では姉、学園では先生、会社では役員と三足のわらじを履いている点は、何より姉要素を重視する全姉連批評においてはあまり良い方向に働きませんでした。家では甘々なのは確かです。でも、それを表す場面の絶対量が少なくなってしまう欲求不満。そして、最も中心的な舞台とされている学園では、「姉教師」的な部分を強調するよりも、「私たち学校でしちやってる！」という意味の背徳感が先行して、お姉ちゃん先生の味わいが薄まっている印象です。

ところで、「学校ではお姉ちゃんではなく先生と呼びなさい」と使い分けを命じるお姉ちゃん、あれ本当に良いものなのでしょうかね。学校でも「姉ちゃん」「弟くん」と公私混同しまくりで、でも周囲からブラコン・シスコン呼ばわりされると「ちがーう！」とキれる姉弟、アリなんじゃないかと思うんですが。

■欲張りすぎて…

姉、教師以外にも企業役員、そして彼女を崇拝する学園の裏組織の存在など、色々詰め込みすぎた結果、姉要素がぼやけてしまいました。

上原先生は名作「あねあねハーレム」の著者なので、姉ノベルが書けない訳ではないはず。ちょっと欲張ってしまったのでしょうか。その意味で惜しい1冊でした。



あねもね！お姉ちゃんパラダイス

著者	真慈真雄
イラスト	紫カジマ
発行	二次元ドリーム文庫

姉三人に母一人という女だらけの家

庭で暮らす少年・志季。

彼はある日を境に、個性豊かな四人の家族と甘い刺激を求め合うようになる。

一線を越えてしまったことに戸惑いながらも、欲求が抑えきれない志季。

弟の肉棒を奪い合う姉たちの熱〜い飛沫が迸るっ!!

■姉3人+ママの4人組

個性的なお姉ちゃん3人（実姉2人+義姉1人）と見た目若すぎなママ（義母）と主人公・志季が家庭内で繰り広げる、明るく奔放なお姉ちゃんパラダイスノベルです。

姉3人と母1人それぞれに一章ずつ、最終章はハーレム。全5章立ての分かりやすい構成で、全編を通したストーリーは無し。鬱設定もなく、キャラ萌えに特化した気楽に読める作品になっています。

■魅力的なお姉ちゃんとママ達

一番目の姉・千秋姉ちゃんは売れっ子官能小説家。陽気な性格で、「怠惰と放蕩が服を着て歩いているような」人間。可愛い弟をウリウリと肉体的・精神的にいじって遊ぶのが大好きな、セクハラお姉ちゃん。そうです、総裁の大好きなタイプのお姉ちゃんです。ああっ、僕も毎朝上四方固めで起こしてもらったり、取材のために服を脱げと命令されてみたい！主人公は、困ったお姉ちゃんだなあといいながらも、姉に従うのは満更でもない様子なので弟同志認定。

二番目の姉、ハルカ姉ちゃんはメローネ

公国の王女で、訳あって主人公の兄（登場せず）のもとに嫁いできた兄嫁。主人公より年下で、金髪ツインテールのゴスロリな「ちびっこ姫様」。「これこれ我が愛しき弟よ、義理とはいえ、わらわは志季の姉じゃ」のような口調は姉しよの雛乃姉さんを思い起こさせます。性格的にもかなりそっくり。

三番目の姉、夏季姉ちゃんは無骨で無敵な剣客娘。時代劇と剣豪小説の影響をまともに受け、曲がった事が大嫌い。普段は袴姿、下着はサラシとフンドシという生粋のお侍姉ちゃん。主君に仕える事が武士の務め+ブラコン=弟を守る事が姉の生きる道。男性的なカッコ良さで「私の想いを、受け取ってはくれまいか」と愛する弟に迫るシーンが魅力的です。

父（現在は失踪中）の再婚相手・冬美ママ29歳は優しくお茶目タイプ。娘と息子達のが大好きで、主人公もよく懐き、もはや実母と実子同然。姉とはまた違うオトナの面を見せ、人妻感もたっぷり詰め込まれておりました。

■基本に忠実な複数姉モ/

主人公がまだ少年と呼ぶのにふさわしいくらいの年齢である上、おとなしい性格も加わって、お姉ちゃん達には従順。お姉ちゃんズの弟ラブ攻撃に翻弄されるのが基本スタイルになっています。複数姉作品には必須の弟争奪シーンや、協力プレイも完備。こんな一家の末っ子に生まれてみたかったと誰もが思えるはず。ギャルゲー的なノリの良さで、読後感もさっぱりでした。



あね忍

～お姉ちゃんはくノ一なんだぞ！

著者	森野一角
イラスト	音音
発行	フランス書院美少女文庫

ガマンしなくてもイイんだよ☆
90センチのオッパイも、大切なバージンも、せ～んぶタカちゃんのもの！
捧げてあげるし、守ってあげる……氷雨姉ちゃんは、あなたのくノ一なんだから！
幼なじみお嬢様・絵美莉と、忍びの火澄まで巻きこんだ恋と誘惑の忍法帳。
強精術にかかった欲望はとまらない！

■くノ一も/お姉の出番

大事な我が弟君（おとうとぎみ）はお姉ちゃんがお守りいたしますっ！…なんて姉くノ一がいたらなあ、と姉属性なら誰もが必ず一度は思うもの（総裁基準）。女忍者といえば、長身で引き締まった体、豊満なバストの上に網タイツを連想させる鎖帷子。どれも姉キャラによく似合うパーツですから、姉と忍者の食い合わせが悪い訳がない。見てみなさい、音音先生による色っぽい忍び装束が目を引く表紙イラストを。やっぱりくノ一には姉がふさわしい。

■尻に敷くけどお守りします！

主人公孝明は徳川の血を引くこと以外は普通の高校生。ある日、結婚相手をすぐ決めることを条件に祖父の財産を継がせると宣言され、御三家のお家騒動が始まった。

メインヒロインは姉で、実はくノ一の氷雨姉。対抗馬は、水戸家の子女でツンデレ同級生の絵美莉と、その彼女を守るくノ一

の火澄。個性豊かで立ち位置の明確な登場人物揃いで、ドタバタ楽しく展開します。

ヒサねえこと氷雨お姉ちゃんは、喋らなければ、猫を被れば慎ましい美人なのに、弟に対する実態は、子供の頃「ライオンごっこ称して姉に崖から突き落とす」ようないたずらをして弟を可愛がっていたような小悪魔。大人になった今でも「タカちゃん、今日は疲れたでしょ。お疲れついでにお姉ちゃんの肩揉んで～」と姉特権でもって弟を尻に敷く。でも、弟に万が一のことがあれば身を挺して守り抜く覚悟のくノ一。ずっと弟の味方でいよう、そして大事な初めても弟のためにとっておこうと弟思いの一面も読めて、弟心をくすぐります。

一方の弟。姉の行動に対し、勘弁してくれよ…とぼやきながらも、実は自分でも気が付かないほどの隠れシスコン。理想の結婚生活をホワワワンと思い描いてみたら、そこに立っていたのはなんとヒサねえ。「なしなし、今のはキャンセル！」と慌てふためく孝明。しかし、姉への秘めた想いはどうしようもなく止められないのでした。

■姉としてもくノ一としても

ヒサねえ以外にもヒロインが2人登場するため、分量的には100%フルに姉ノベルとは言えませんが、仮にヒサねえの分量が50%としても、並の姉ノベルに比べれば満足度は上。時にワガママ、時に純情なくノ一のヒサねえに守られちゃって下さい。



あまえて 騎士ねえ様

著者	あすなゆう
イラスト	みやま零
発行	フランス書院美少女文庫

「貴公の、スキにしてよいのだぞ☆」

凛々しくカッコいい騎士ねえ様が初体験を教えてください！彼女も実はバージンなの！

甲冑姿のファ姉を思いきり貫いて、何度も何度もイカせちゃおう。

異世界から来た竜騎士ファニーとの甘い同棲生活……どんなお願いも最強の年上お姉様がかなえてくれる！

■異世界から来た騎士ねえ様

ごく普通の中学三年生の主人公・信は、ある日突然異世界からやってきたやんちゃな神族の女の子ゼルミールに襲われる（性的に）。彼女を異世界から追ってきた竜騎士ファニーは信を助ける際、わずかに不覚をとり負傷してしまう。主人公は恩人であるファニーを自宅に引き取り、看病を続ける中、次第に二人は…というストーリー。現代を舞台に、異世界の凛々しい騎士ねえ様と甘々いちゃいちゃシーン満載の内容です。

■凛々しくて…可愛いお姉さま

上述のあらすじの通り、ヒロインのファニーさん（作中ではファ姉と呼ばれるので以下ファ姉）は前触れもなく現れた騎士ねえ様なので、「姉」ではありませんが、年上のお姉さま要素はたっぷり。竜騎士属性…はニッチ過ぎてあまりいないでしょうが、あえて言うなら先輩属性持ちに向いています。家族同然に密着するでもなく、程よく心の距離を保っている関係なので。

さてこのファ姉、近衛竜騎団随一のハル

バート遣いで、騎士としての誇りと気品、そして自信に溢れた凛々しいお姉さまであらせられます。騎士道精神を純粹に貫くファ姉の行動原理は、武士道に心酔する剣道娘のそれとさえいえるイメージしやすいでしょう。セリフも、主人公の股間を目の前にして「なかなか、立派なものを…この私の決闘相手として、これほどふさわしいものも他にないな」、弱点の耳を責められて「貴公、敵の弱点をつくのは騎士の、あんっ、することでは一はうううんっ！」と騎士ねえ様らしい言葉遣いで統一されています。

性格面は、強く、気高く、上を見て生きてきた自分が年下の異性に惹かれてしまったことに戸惑い、可愛いと言われて「近衛竜騎団の騎士に向かって可愛いなどと！」と真っ赤になるような、誇り高い年上感たっぷり。「一愛しい。この子はなんて愛しいんだ」と、年下の男の子を守り慈しむことに目覚めてからはさらにお姉さん度アップ。主人公に激しく愛され、「一イッてしまった…こんな年下の少年相手に…」とつぶやき、最後にはすっかり弟の魅力に取りつかれた姉の顔を見せてくれました。

■みやま零先生のイラスト GJ!

ファ姉の騎士ねえ様らしさを外見的にサポートしているのは、みやま零先生のイラスト。凛々しさと可愛さを兼ね備えたファ姉の容姿と表情。本文のファ姉のイメージと見事に馴染んでおり、みやま先生の巧みな職人技に脱帽でした。



お姉さんはサンタクロース！

著者	わかつきひかる
イラスト	みけおう
発行	フランス書院美少女文庫

「Xmas プレゼントはお姉さんよ！」

カワイイ三角帽子に、セクシーボディを包んだ真っ赤なふわふわワンピース。サンタ娘のエイミーが贈る、無邪気で困った年上誘惑！

料理もダメ、Hな知識もまるでナシ。けれど処女を捧げてからは……パイズり奉仕、お風呂でラブラブ、最高すぎるお姉さん体験！

■降ってきた見習いサンタさん

12月のある日、高校生・透也の目の前に降ってきた…正確には落ちてきたのは、研修中の見習いサンタ・エイミーさん。持ち前のドジっぷりで不合格を言い渡されるが、イブまでに目の前にいる少年の願いを3つ叶えることができたら救済しよう、そんな状況で物語は始まります。

■見習いお姉さんの可愛い姿

ひとり暮らしの主人公がその場で口にした一つ目の願いは「家事をしてくれる家族が欲しい」というもの。おいおい、男なら「お姉ちゃんが欲しい」でしょ！

しかし、エイミーさんは潜在的に姉願望があったのか、私が君のお姉さんになってあげればいいのねっ、と勝手にお願いを解釈して即実現してしまいます。

エイミー姉さんは人間界の生活に不慣れなばかりか、家事自体が苦手。料理もまともにできず、逆に主人公に手料理をせがんで喜んで食べているような、弟依存型の甘

えんぼお姉ちゃん。それなのに、主人公が「エイミーさんは大人しくして下さい」とでも言おうものなら「私は君のお姉さんなのよッ！姉さんと呼びなさいっ！」とぷりぷり怒り出す。でも、エイミー姉さんは基本的に小動物系の可愛い性格なので、威厳はほぼゼロ。見習いサンタであると同時に、見習いお姉さんでもあったのです。

そんなエイミー姉さんだから、Hな知識もかなり疎く、弟の部屋を掃除して見つけた本や漫画で知識を習得して、一人で練習。全く実戦経験がないのにも関わらず「私が透也くんに『お姉さんが教えてあげる』をして大人にしてあげるのよっ!!」と意気込み、しかしいざその時になると怖くて泣き出す始末。姉と弟の初々しさが上手く描かれ、ねちっこさやくどさがない描写は作品の雰囲気にもよくとけ込んでいました。

■悲恋の姉弟要素も

特定の人間を愛してはならないサンタの掟に背いて愛を告白すると雪になって溶けてしまう人魚姫的設定と、イブには天界に戻らなければならないシンデレラの設定が、終盤にかけてじわじわ重みを増してきます。お姉ちゃんと弟は、互いに包み隠さず想いを打ち明けられる関係であり、死が二人を分かつまで生涯の伴侶であるはずの大前提を取り払った時、そこにどんな姉弟ドラマが展開されるのか。掟を破り、イブを迎えた姉弟のラストは目が離せませんでした。



お姉さんが診てアゲル

著者	神楽陽子
イラスト	シコロスキー
発行	二次元ドリーム文庫

虚弱体質の少年・悟が入院したE病棟。

そこで待ち受けていたのは、レオタードを着た四人のお姉さんナースだった！

年上の美女たちに施される、献身的なお世話の域を超えた大胆な奉仕に、少年の心と身体は肉欲の病に冒されていく!!

■ナースお姉ちゃんファンに

教師と並び、お姉ちゃんに似合う職業の双璧といえば、もちろんナース。入院中の弟患者に手厚く看護してしまうもよし、病院ならではの道具と設備で弟を優しくいじめちゃうもよし。年季の入った姉属性なら、「姉+ナース」と聞くだけで、具体的なお姉ちゃんが何人か浮かんでしまうでしょう。

そんな定番中の定番、ナースお姉ちゃんが登場する作品が本書です。

■ナース4人がかいで…

マッド気味の天才医師の父が設立した大病院。父のある企みにより、入院患者として専用病棟に送り込まれた主人公・悟は、薄地できわどいレオタードにチュニックを羽織っただけのナース服姿に目を奪われる。しかも、そこに表れたのは実姉のエリカお姉ちゃんと、その同僚ナース・真奈美、綾乃、唯。4人がかりで、1週間後の手術まで献身的過ぎる性的看護を受けることになってしまい、ボク一体どうなっちゃうの…？というストーリー。

真奈美は姉の親友で、内気控えめな性格。

綾乃は自由奔放な性格で誘惑系の小悪魔。唯は後輩の面倒見が良い、ナースのまとめ役。皆、虚弱体質で気の弱い主人公の可愛さと股間の凶暴さに姉性を刺激されて、彼に興味津々。一人が出し抜こうものなら他が黙っちゃいない親密な関係を窺わせる中、注目の的は何と言ってもエリカお姉ちゃん。明るく元気で活発、「いい加減、弟離れしなさいよ、ブラコン女」と言われようとも、人前でもはばからない弟溺愛型のお姉ちゃんに弟はいつも困り気味（困らなくていいのに）。弟に手出しする者には「あー！綾乃センパイ、エリカの悟に触らないでくださいっ！」と抵抗し、弟に構い過ぎて反発されると「うふふ、姉弟にケンカは付きものよね。悟ったらムキになっちゃって、可っ可愛い！」と一切懲りることなく、「麗しき姉弟愛こそ、至高のロマンよね」と、うっとり。裏表のない、天真爛漫なブラコンお姉ちゃんの姿に和みました。

■姉メインには至らず

貞操感ゼロの世界なのに、なぜか近親姦だけはダメと他の3人が主張するせいで、メイン格の姉の存在感が埋もれ気味。ややマニアックな最終章では流石にお姉ちゃんが頑張りますが、中盤で弟の筆下ろしを他の子が務めるのは賛否分かれるかも。ちょうどその現場に遭遇した姉が、「悟の初体験が見られるなんて、エリカ感激！」と言って、弟が失敗しないよう腰使いをサポートする甘やかし方は、新鮮ではありましたが。



お姉さんデイズ

お嬢様とメイドたちの誘惑

著者	神崎美宙
イラスト	KEN
発行	二次元ドリーム文庫

美人で気丈なお姉さま・蓮華を怒らせちゃった!!

大好きな義姉と気まづくなった少年・清春を慰めようと、メイドたちがあの手この手で迫ってくる!

そして仲直りするため、少年たちはエッチで大胆な作戦を立てるが…!?

■メイドさん達とお嬢様お姉様

大勢のメイドを抱えるようなお屋敷に養子として引き取られてきた、ちょっと弱気な主人公の少年・清春。登場するヒロインは、母性愛に溢れ、実は隠れ少年愛好家なメイド長の真咲さん、双子の萌え系メイド・美由さんに美奈さん、そして義姉の蓮華お姉様の4人。もちろん全員年上です。

真咲さんは姉弟よりも一回り年上で、母親と姉の中間の立ち位置。主人(=主人公と姉)に仕える立場を守りながらも、未熟な主人公とウブな蓮華姉に愛の手ほどきをする、「お姉さんのお姉さん」的印象。「きちんとお願いができるまでおっぱいはお預けですわ」と自慢の胸をご褒美代わりに清春を教育する姿は、あくまで主人公のためなのか、あるいは自分の趣味なのか?

美由&美奈お姉さんメイドコンビは、年上といっても好奇心旺盛な子どもっぽさのある女の子。しかしエッチ方面は手慣れたもので、年下の主人公に可愛い〜と抱きつきながら、手はしっかり急所を握っている始末。妹チックなイメージさえあるのに、「お姉ちゃんちょっと物足りないぞお〜」とお姉ちゃんぶるギャップも◎。

■素直じゃないお姉様

学業優秀・容姿端麗な生粋のお嬢様、蓮華お姉様は、負けん気が強く、他人に厳しく、弟に対して甘い顔を見せることなどないような素直じゃない性格。

ある日、義弟である主人公が出来心で姉の下着を使って励んでいるところを目撃し、ショックを受けて大激怒。姉はお仕置きと言わんばかりにメイド達をして弟を性的にいじめるよう命じて立ち去ってしまう。そこで弟は筆下ろし。「姉がいるのに何もメイドさんで初体験させなくても」とその時は思ったものですが、実はこれ、気弱な弟に自信をつけさせ、決して自分からは折れないであろう姉の心を開かせるための実力を養う、メイド達の作戦の一環であったわけで、通して読めば良くできた構成です。

意固地になった蓮華お姉様は、弟の勇気によって心を解きほぐされ、前以上に仲良しに。その過程をじっくり鑑賞して下さい。

■雨降って…

年上メイドさん達の優しい指導のご奉仕で背中を後押しされ、お姉様のツンツンした態度→強がりが決壊してデレデレのブラコンになる落差が何と言っても見どころ。新たに出来た弟のことを最初は何とも思っていなかった姉が、次第に大きな存在となり、この一件で掛け替えのない家族となる…。義姉・義弟の関係だからこそその姉弟ラブストーリーが楽しめる1冊でした。



お姉さんと特訓中！

著者	羽沢向一
イラスト	白猫参謀
発行	フランス書院美少女文庫

お姉さんが三人がかりで教えてあげる。

巨乳にぴったり、競泳水着姿も眩しい水泳インストラクターの真夏さんに、テニスコーチの稜さん、フィギュアスケーターの亜矢美さんまで加わり、はじめた夢のような(?)性レッスン。ご褒美初体験、騎乗位H、お尻ご奉仕、あま〜い授業の連続に体がもたない！

■水泳、テニスにスケート？

スポーツ企業で食品研究開発部に勤める優秀な研究者の姉に差し入れを運んだ先で化学爆発に巻き込まれ、特異体質となった主人公。周囲の人間の身体能力を高める物質を分泌するという、何とも嬉しい体質になってしまい、アスリートの年上お姉さん3人と3日間ずつ実験的に生活することになるお話です。そのお相手は、水泳選手、テニスプレイヤー、フィギュアスケーター。いずれも日本代表クラスの強者で、三者三様の素晴らしいスタイルの持ち主。そして…年下の男の子好き。面白いように主人公がパクパク食べられてしまいます。

「冒頭に出ていた実のお姉ちゃんは？」との疑問が当然湧きますが。なんとお姉ちゃん、攻略対象ではありません。これにはビックリしました。頭脳明晰、がさつで独裁型のお姉ちゃんに好みだったんですが。しかし、そのがっかりを補って余りある年上お姉様揃いの内容だったので、総合点ではプラスに落ち着きました。

■個性的な女性アスリート3人

極薄の競泳水着を身にまとい、迫力のある胸が魅力の真夏さん。本作では正ヒロイン的な位置で、主人公の水恐怖症を克服させる役。「最初なんだから、手を添えて入れればいいよ。わたしの前で見栄を張らなくてもいいからね」と優しくリードして筆下ろしをしてくれた相手でもあり、「年上の恋人」的なイメージが強い女性。

テニスプレイヤーの稜さんは、肉食獣の匂いさえ漂う女性。強気な性格と男気さえ感じさせるセリフ回し。「入れただけで果てやがって。わたしはまだイッてない。これでは生殺しだ」と、している最中も妥協無しの強気姿勢。デレ要素？甘い！そんなものは稜様には似合わない！年上から命令されたり叱咤されたりするとゾクゾクする貴弟なら間違いなく一押しのお姉様。

フィギュアスケーターの亜矢美さんは、大きなお尻が魅力の三十路未亡人。天然気味で、しゃべり方もおっとり丁寧。熟女色を全面に出しており、元人妻の経験からか、女性は男性にお仕えするものとの信念を持つ。「ああ、わたくしのお尻は、ちゃんとご奉仕できていますかしら」。

■白猫参謀氏のイラストも併せて

姉ゲー好きなら誰もが知る原画家・白猫参謀氏の挿絵により、姉ノベルとしての魅力は倍増。文体は濃厚で熟練技が光るのに、萌えるイラストとも合うキャラクター設定。年上の恋人・体育会系先輩肌・熟れた人妻による三位一体の集中特訓を受けてみよ！



隣の姉さん

著者	櫻木充
イラスト	あずまゆき
発行	フランス書院美少女文庫

女の人の下着、見るのも初めてなの？

この下にキミが知りたい秘密があるの。これがキスの味。これが胸の柔らかさ。今日はフェラチオをしてあげようか？それとも、最後まで教えてほしいの？

ガールフレンドの美穂さんに悪いけど、奈緒お姉さんが童貞を奪ってあげる。

だから…私のことを、忘れないで。

グを穿くことなど知識として知っていたはずなのに、間近で実物を見たときのドキッとした感情が伝わってきます。これが見慣れた実姉のストッキング姿だったら、一々こうは書かないでしょう。

距離は近いが壁はある。そんな隣のお姉さん像が全編に渡って維持されていました。

■永遠の憧れの…

「隣のお姉さん」、それは太古の昔から連綿と現代に受け継がれる伝統のヒロイン像。肉親には萌えられないが、しかし年上の女性に甘えたいと願う、それはそれである意味正常な男子の欲望を受け止めてきたのが隣のお姉さん。大体、「隣のお姉さん」と「隣の妹さん」では、世間においてどちらが一般的なフレーズなのか、言うまでもないでしょう。それくらい、男の子は年上の女性に惹かれるように出来ているんです。

本書は、タイトルがストレートに「隣のお姉さん」となっているように、メインのヒロインは隣（のワンルームアパート）に住む立木奈緒お姉さん。清楚で優しい物腰の看護婦である奈緒さんは、「同世代の異性には感じられない成熟した色香と、優美さを兼ね備えた」女性として男子高校生の主人公の目に映ります。一人っ子の彼にとって、奈緒さんが憧れの大人のお姉さんであることが上手に表現されており、例えば奈緒さんの足を間近で見て「(あっ、ストッキング穿いてたんだ)」と敢えてつぶやかせる所はその一つ。大人の女性がストッキン

■下着嫌いな弟なんていません

本書のもう一つの大きな要素は、下着とその匂い。女性にあまり免疫のない主人公は、お姉さんのパンチラ・ブラチラに対して内心大いに興奮。部屋に通されて一人になったら、悪いと知りつつ洗濯かごやダンスの引き出しに手をかけてしまったり。バレてしまっても、ある事情から理解をしてくれる奈緒さんの優しさが身に染みます。

■ほろ苦い要素も加わって

隣のお姉さんが年下を相手にする作品ではすぐ痴女モノ風に描かれてしまいましたが、奈緒さんには今は亡き最愛の弟が居た設定もあり、必要以上にいやらしくなりません。後半、今まで受け身がちだった主人公に対し「男の子なんだから、してもらっただけじゃダメよ。さあ、早く…」と手ほどきをするシーンは隣姉ジャンルの醍醐味。甘々な情景の後には、意外にも切ない締めくくり。人によっては否定されるかも知れませんが、奈緒さんの心情に思いを馳せるとき、決して悪くない締めではないでしょうか。



キャリアあね。

～お姉ちゃんは下着デザイナー～

著者	みかづき紅月
イラスト	YUKIRIN
発行	フランス書院美少女文庫

「お姉ちゃんだって、初めてだもん」
家では甘い義姉、オフィスでは厳しい上司。憧れつづけた美紅ねえが大切なバージンを捧げてくれる！
Iカップ巨乳でパイザリ奉仕、二人きりで下着ショー。
キャリア系お姉さまに可愛がりたい？
愛しい姉をイジメたい？
許されない関係だけど、二人は恋人！

■オフィス“シスター”ラブ

H ライトノベルの主人公は「学園の×年生」のような設定が多い中、本作では主人公が新入社員に値する年齢。そしてお姉ちゃんは同じ会社の先輩キャリアウーマン。
「弟が生徒、姉が担任教師」型でよくみかけるように、家の中と外で態度や接し方が違う姉がいますが、「上司と新入社員」型でも同じような姉弟の姿がありました。

■外では凜と、内では甘々

社員が女性ばかりの大手下着メーカーに就職した主人公。入社初日、なんと自分の義姉が同じ会社に勤めている事を知り、しかも普段見慣れているゆるゆるの甘えん坊な姉とはまるで違う、凜とした「キャリアあね」だった、というストーリー。現実にはそんな偶然ないだろ！と突っ込むのは野暮。
お姉ちゃんの名前は美紅（みく）。親の再婚で出来た義姉だが、付き合いが長いいため姉弟の背徳感もちりばめられています。
美紅ねえは、うちの中では「むう～。そんなこと言わずに。ね♪お願い～。義姉さ

ん、おなかぺっこぺこなんだけどなあ～」
「あはー。ありがとお♪やっぱ、持つべきはよくできた義弟よね～」と弟に依存しまくりの甘えんぼにも関わらず、会社では公私を分けてビシッと部下を指導する凛々しい姉に変身。弟に甘えてくるお姉ちゃんと、弟を立派に育てようとする真面目なお姉ちゃん両面の姿が見られます。

キャリアの言葉から連想しがちな、クールかつドライなイメージはほとんどなく、基本は甘い姉。ビシバシ叱られて、弟ヒイヒイな描写はゼロ。弟はもともと気が弱い性格のため、姉に見返してやろうなどとは微塵も思わず、逆に姉の右腕になろうとする姿勢が見られるのは好印象でした。

家庭内の姉弟シーンも手抜きなし。脱ぎ捨てられた姉の下着につい手が伸びてしまう弟や、姉のおっぱいでイチャイチャしている所を「お母さんに見つかっちゃう…」と心配する場面もあったりして、家族感もしっかり感じ取れる仕上がります。

■熱い姉弟ドラマ仕立て

女性ばかりの会社が舞台の中心でも、主人公に言い寄ったり、まして弟を寝取ったりする同僚はいないので、姉一筋に展開するストーリーは○。
物語の本筋は、ベタなテレビドラマ的ではあるのですが、しかしよく考えると義理とはいえ姉弟でこんな熱愛ドラマはテレビではなかなか演じてくれない訳で、姉ノベルならではの夢を見せてくれる作品でした。



ごくあね

お姉ちゃんは四代目

著者	森野一角
イラスト	神無月ねむ
発行	フランス書院美少女文庫

「これからはお姉ちゃんと暮らそ」

再会した激アマ&弟ラブの龍美ねえは神泉鷹津組の次期組長!?

牡丹も鮮やかな着物姿は美しく……男どもをなぎ倒す立ちまわりは凛々しくて……

でも、甘え顔はめっちゃカワイイ!

「初めてはコタちゃんに決めてたの」

なんて誘惑告白されたら、ガマンできない!

■姐さんなお姉ちゃん

『ごくあね』の“ごく”は極道の“ごく”。即ち極道お姉ちゃんがヒロインの作品です。

ヒロインは、主人公と5歳離れた実姉の美剣龍美(るみ)姉ちゃん。独立して実家を離れていた龍美姉が久々に帰ってきたと思えば、その姿は赤い着物で長い黒髪を振り乱し、チンピラ男達を蹴散らし大立ち回りを演じる「姐さん」だった!

実は任侠の世界に生きる一家だったこと、訳あって若頭代行を任されたことを告げる龍美姉。小さい頃は弟を従えて女ガキ大将のように一緒に遊んでくれた記憶のあるカッコイイお姉ちゃんが、今ではヤクザ達を相手に、

「あんたら、覚悟はできてるんだろうな」と凄みをきかせる…何ともシビれる話じゃないですか!

それでいて、家では弟にベタ甘。一緒にお風呂に入っては「お姉ちゃんが洗ってあげる」とすり寄ってきてくれるような。外では風格ある女極道の姐さん、家ではブラコンお姉ちゃんの落差がたまりません。

■一方、主人公の弟は…

こんなにカッコよくて甘いお姉ちゃんがいたら、当然弟としては好きにならずにはいられない。「虎太郎にとって龍美は、崇拜と敬愛の対象だったのだ」とあるとおり、主人公はシスコン要素を持ち合わせているのですが……スイッチが入るとSチックなベッドヤクザに。背後から姉の体をわしづかみにしてのし掛かり、「いやがる龍美を差し貫き、犯しているという錯覚が虎太郎の黒い欲望を満たす」ことに励む描写が盛り込まれています。龍美姉もそれでご満足の様子で、弟の色に染められていくことに悦びの表情を見せます。姉属性の中では少数派の、姉を征服することで姉弟愛を示したい弟さんならば貴重な一冊たりえるでしょう。しかし、残念ながら総裁はお姉ちゃんをモノにするよりお姉ちゃんのモノになりたい派。極道お姉ちゃんなら姉に焼きを入れられるくらいのことを覚悟していたのに、余計な心配に終わってしまいました。

■幼なじみに負けた?

本書には幼なじみの女の子・諒が登場するのですが、分量的に龍美姉よりも上。主人公は姉のことも忘れて諒に夢中な不忠の弟に。そして、龍美姉は弟の浮気の現場に踏み込んでも怒りも妬みもせず、修羅場は抜きで3人仲良しエンディング。極道お姉ちゃん独り占めを目論んでいると肩すかしになるので、心の準備は万全に。



お祓いお姉さん！

～弟を誘惑しなさいっ

メーカー	Lilith
ジャンル	お姉さんにHなお祓いをされる ADV
発売日	2007年12月28日

主人公の東雲恵（しのめけい）とその姉の乙香（おとか）は代々続く祓魔師（悪魔払い）の家系で、上ノ水流学園へ通い表向き学生として暮らしながら、人に仇為す妖たちを退治する事を生業としていた。

ある日の放課後、姉に無理矢理入らされたオカルト研究部の部室から帰ろうとしていた恵は、夕闇迫る廊下で淫魔インクに魂を人質に取られてしまう。そして弟の帰りが遅いからと様子を見に来た乙香と、インクの腹を満たすためエッチをするハメに……。インクに取り憑かれた者は淫乱化してしまい欲望を我慢すると死んでしまうという。淫乱になってしまった恵は、欲望のままに、姉の膣に大量の射精してしまう。こ

うして恵の淫乱衝動が起こるたびに、半ば強制的にセックスをしないといけなくなった姉弟。

動揺する恵の隣で高笑いのインク。さらにその隣で怒りに震える乙香は、拳を力の限り握り締めるのだった。

■ 久々のリスの姉ゲー

姉ゲーの 2000 円均一ショップことリリースから、中の人笹@氏曰く「久しぶりの姉作品に心が昂ぶる」（公式サイトより）のコメント付きで発売された姉作品。リリースも一時期は姉ゲーを連発していたのに、気が付けば 2006 年 4 月の『奴隷な彼女 2』¹以来の空白でした。まあ、その間はネコ娘→人妻→先生→人妻と続いていて、年上傾向は実際ほとんど変わっていなかったワケですが。

¹ 全姉連会報第 5 号にレビュー収録。専制君主なお姉ちゃんの尻に敷かれたい、子分志望な弟さん向けの良作姉ゲー。

■ 今度の設定は？

主人公とお姉ちゃんは、悪魔払いを生業とする一族の子。

巫女装束風の衣装に身をまとう乙香お姉ちゃんは、普段は学生、ときどき有能な祓魔師。長い黒髪をたなびかせ、妖を祓うカッコイイお姉さまなのです。

一方、その弟である主人公の恵は、姉を補佐する見習い。祓魔師としては未熟であり、肉体的にも精神的にも格上の姉に対し、憧れと好意を持ちながら、修行中の身です。出来の良い姉を持った弟には、コンプレックスではなく、尊敬の念を持たせる設定の方が個人的には好きです²。

ストーリーは、ある日突然現れた可愛げな淫魔に弟が襲われ、彼女に取り憑かれてしまう。突発的に起こる淫乱発作は、姉が身を挺して鎮めなければ命に関わるので仕方なく…との出だしで始まります。

長ったらしいプロローグは一切抜き、日常に異世界からのキャラクターがいきなり登場して一騒動、はリリースのお家芸。

■ 笑わないお姉ちゃん

メインヒロインの乙香お姉ちゃん、学園では「笑わない女王」とのあだ名を持つほど、大変なツンツンぶり。弟だけでなく、誰に対しても、です。冷徹で真面目な表情を、学園でも家庭でも貫きます。性格的に

² 「コンプレックス持ちの弟」は、姉をいつかやり込めたいと考えるのがお好きな S 派向け。

きつい、というよりも、四六時中ちょっとした不機嫌がくすぶっている姉、が正しいかも知れません。

はは～ん、こんなにカッコ良くて渋いお姉ちゃんは、内心ブラコンで、弟の発作を鎮めるため仕方なくと言いながら実は嬉しくて、その辺を読み取るのが楽しむポイントだな、と思っていました。

実際、発作が起きた弟をダシに、淫魔が弟を誘惑するよう焚きつけると、

「くっ…誘惑なんて、するわけないでしょ」

と頑として拒否するも、苦しむ弟を目の前にして、結局

「…私と…えっ、エッチ…したくない…？」

と変化するのは、弟心にきゅんと来るギャップ萌え。クールな表情はそのままに、ちょっと顔を赤らめて弟を気遣うお姉ちゃんに鎮めてもらっちゃって下さい！

こんな様子で、それなりに姉ゲーらしい面はあるのですが、今一步押しが足りなく感じます。姉の冷徹な性格が問題なのではなく、家族としての描写が不足気味なのが原因か。家での生活シーンが少ないんです。外では強い姉ほど、家では無防備な姿を弟にさらけ出して欲しい。たとえ厳しい性格の姉でも、姉弟同士は気を遣わない関係でいたいと思うんですけどね。

■キャラクター

・東雲乙香（姉）

祓魔師の一族に生まれ、霊力の高い天才肌の祓魔師。学園でも日常でも常に冷静沈着、いや冷徹と言った方が正しいくらいのクールな姉。甘い顔どころか笑うことさえなく、いくらツンとすましたお姉ちゃんが好みだとしても、かなりの忍耐を強いられることでしょう。

「ちゃんとしなさい！」と叱られてばか

りの主人公が、それでも自分の師として、目標として姉を慕う姿は偉いものだと感じます。

そんな弟の姿をしっかり見ている乙香お姉ちゃんは、簡単に甘い顔では応えてくれませんが、しかし弟に仇なす者には容赦しないと全力で護ってくれます。

「人の弟に何してんのよこの変態が！」

「人の弟に手を上げておいて、ただで済むと思うな！」

「弟が犯されたなんて、許せないけどね……っ」

「弟をアンタみたいな淫魔に犯されるわけにはいかないのっ」

「人の弟に傷を負わせて、これ以上その身体を保っていられると思うな」

私の大事な弟に傷一つでも付けたら許さない、という気持ちに終始ブレがなく、弟のことを大事にしているのがよく伝わってきます。姉の性格設定上、弟を甘やかせられない分、こうした形でブラコンを示そうとした努力が実を結んでいました。

冷たい部分ばかり強調してきましたが、終盤は…プレイしてからのお楽しみで。

・インク（淫魔）

半人前の見習い淫魔で、身長も胸囲も思考回路もお子ちゃまっぽく、小悪魔ではなく子悪魔。なぜインクが現れて、弟に取り憑いたりしたのか。その理由はストーリーの核心に触れるので省略します。

■もっと家族っぽさが出れば…

ツンツンお姉ちゃんが弟を誘惑、っていうストーリーは間違いなかったのですが、姉弟らしさや家族らしさが弱く、その点は物足りなく感じてしまいました。

惜しくも本作に関しては 2000 円相応の姉ゲーと評しておきます。



ボイン姉妹の個人授業

メーカー	frill
ジャンル	お姉ちゃんの性教育 ADV
発売日	2008年4月25日

浪人二年目、おまけに童貞!

失意の青春を送る主人公に、業を煮やした姉妹たちが立ち上がった。

「大学生としても、男としても、あんたを一人前にしてやるわ!」

美人で秀才揃いの姉妹たちから、勉強とエッチの個人指導を受けることに…。

果たして、主人公は大学合格と脱童貞を果たすことができるのか!?

■4姉妹(妹一人含む)に囲まれ

ここ最近少なくなってきた多人数お姉ちゃんモノですよ! 今度は4人姉妹。姉弟いっぱいの大家族好きにはたまりませんね。まあ、実を言うと、そのうち1人は妹ですが。ただ、姉萌え派にも意外と受け容れられてしまうタイプかも知れません。

お姉ちゃんいっばいで、『ボイン姉妹』っていうくらいですから、おっぱいスキー覚員にも安心。まあ、実を言うと、そのうち1人はぺたんこですが…。

■和気あいあいのプロローグ

大学2浪が決まってしまう、友達以上恋人未満な予備校の女の子にもフられ、下宿のアパートも追い出された、ナウ人生どん底の主人公・薫。公園でのたれ死に同然の所を救ってくれたのは、弟の行方を探してくれていたお姉ちゃんだった。姉3人と妹1人が待つ実家に連れて帰られ、絶望の淵にいた薫を励まし、ここはあなたが居てい

い家なのよ、と迎え入れてくれる場面がプロローグで流れます。

姉妹達に要らぬ心配と面倒をかけたのにも関わらず、不甲斐ない自分に「おかえり〜」と言ってくれるこの優しさ。多浪+失恋の惨めさも包み隠さず打ち明けられる、恥も遠慮も要らない間柄。どれも家族関係だからこそそのシーンです。

一息ついた後の事情聴取兼家族会議では、長女の梓姉がやや厳しめに父親的な立場で事の経緯を尋ねれば、次女の香澄姉が母親的にまあまあそんなに言わなくても抑え役に。歳の近い優佳莉さんは主人公の気持ちを分かってくれた上で弁護し、末っ子妹の沙紀は一人冷静な傍観者として成り行きを見守る。主人公がこらえきれずに涙をこぼしてしまうと、梓姉は厳しく言い過ぎたかとおろおろ、優佳莉さんはどこまでも主人公の立場で擁護、妹の沙紀はクールに兄さんも甘いところがあると指摘、最後に香澄姉が母性たっぷりの胸で包んでくれる。

…ああ、この姉妹と主人公達はこんな立ち位置と力関係で暮らしてきたんだな、とうかがえる良いプロローグとなっています。

プロローグ部分は公式サイトから拾える体験版で遊べるので、まずは秋月家の一日家族になって雰囲気を楽しみましょう。

■一方、本編は…

4姉妹それぞれの力を借りて、受験勉強に専念することになった主人公。自分のた

めに協力してくれる姉妹達へ、せめてものお礼として、自分が運転する車での送り迎えを買って出ることになります。

初めは勉強だけ手伝ってもらっていたはずが、主人公の煩惱が勉強の妨げになっている→欲求を解消してあげるのも私たち姉妹の役目、と梓姉が言い出したことで、下半身の面倒まで見てくれることになったところから本編スタート。平日は毎朝一人、送り迎えをする姉妹を選び、その相手がストレス解消のために、その日の夜に部屋を訪れて来ることになります。要するに、夜のお勤めご指名制度。ターゲットのお姉ちゃんを選び続けることでクリアに至ります。

メーカー公称のセールスポイントに、「焦らしプレイ」「すぐに身体を許すようなことはありません」とあるように、最初はパンチラを見せてもらう程度から、段々その先へと進むようになっており、“お姉ちゃんの性教育 ADV”らしさが表れています。

しかし、徐々にお姉ちゃんとの仲が深まっていくのは良いのですが、その過程が体の関係だけなのが残念としか言いようがありません。毎朝の車中での短い会話と夜の性教育がゲームのほとんど全てで、骨になる姉弟ストーリーのような物が無いのです。体の繋がりだけは丁寧に段階を踏んでいるのに、心の繋がりがなござりです。

さらには、夜の性教育は1対1であるため、プロログではあんなに仲が良さそうで面白い掛け合いのあった4姉妹+主人公の家族感も、本編では別居状態。ほら、例えば1人のお姉ちゃんばかり狙っていたら、他のお姉ちゃんが冷やかしてきたり、ヤキモチ焼いてくれたりとかありそうじゃないですか。二人でいちゃついている時に乱入なんてのも大アリな訳で。でも、そういうのが無い。もったいないよなあと感じている時に、ふとこの作品のタイトル名に気付いてしまったんです。そう、これは『ボイン姉妹の**個人授業**』だったんだ、と。

■キャラクター

・ 秋月梓

秋月家長女。スーツ姿がビシッと決まる、姉妹きっての美人系。会社役員を務める完璧超人。このタイプのデキる姉は、天然おっとり型の長女に続く次女を務めるのが姉ゲーの定石でしたが、梓姉は強引でワガママも言う反面、柔軟で話の解る一面も有し、長女であっても姉妹のパワーバランス上悪くありません。



Sかなあ…と予想していたら、案外ノーマルな姉で、頼もしさが先行する良き姉御。ブラコン型は弟心配性タイプ。行方不明になった主人公を真っ先に見つけてくれたのも梓姉ならば、合格のために煩惱排除作戦を提案したのも梓姉なのです。

「うんうん、素直で可愛い弟を持って、私は幸せだわ」

「ま、私だって、可愛い弟の頼みじゃ断れないものね」

「そうよ、最初から正直に言えばいいの。薫のくせに私に隠し事なんて生意気なのよ」

「恥ずかしがらないで、ちゃんとお姉ちゃんに言うのよ」

リーダーシップを発揮するお姉さま属性と、面倒見の良いお姉ちゃん属性を兼ね備え、秋月家を代表するに相応しいヒロインです。

・ 秋月香澄

秋月家次女。高校の教師。おっとり型だが、職業柄真面目でしっかり者の大和撫子。弟を思いやり、何とか支えになってあげたいという献身的な心は姉妹一。男の子のむらむらしちゃう気持ちの解



消もお姉ちゃんの役目なのよねと自分に言い聞かせ、H方面は奥手で恥ずかしがり屋なのに、頑張って指導してくれる姿は香澄お姉ちゃんの愛の強さをよく表しています。思い込んだら止まらない頑固さと、自虐的年上コンプレックスはご愛敬。

「……まだ眠いなら、お姉ちゃんが着替えさせてあげましょうか？」

「お姉ちゃんは、薫くんより大人なんだから……これくらい平気よ」

「お姉ちゃん、手やお口でがんばるから…ね？」

「年上だし……その、私なんかじゃ……」

「私はどうせオバサンですから〜っ」

・秋月優佳莉

秋月家三女。主人公と最も歳が近く、友達感覚のお姉ちゃんです。あ、彼女に限っては、「お姉ちゃん」ではなく「優佳莉さん」と呼ぶんです。“歳が近いせいか、お姉ちゃんと呼ばれるのを嫌がる”らしいので。歳が近いからこそ「お姉ちゃん」と呼ばせたがる姉が多い中、珍しいタイプです。でも、お姉さんらしいところを見せたい意識はあるので、姉としての本分は失っていません。



普段はラクロス部所属の大学生。明朗活発なさっぱりした性格で、誰からも好かれるキャラ。主人公ともウマが合い、最も気心が知れている間柄になっています。梓姉がするお説教に対し、的確に弟の気持ちを汲んでフォローができるのは優佳莉さんの得意技。主人公がよく懐くのも分かります。

少し年の離れた上の姉達とは違い、遊び仲間のような優佳莉さんとは今までじゃれ合うような関係だったのが、今回のプロジェクトでは恋人的な設定で行こうということになって、いちゃつき合う関係に。しか

し、優佳莉さんは恋愛経験がなく、個人授業も姉弟二人であれこれ試行錯誤するウブなカップル。

「薫があんまり可愛いから、ちょっとからかいたくなっただけよ」

「よし、それでこそあたしの弟ね」

「薫のことは好きだし、あたしにできることがあったらしてあげたいし」

「なによ、あたしじゃ恋人役として不満があるっていうの？」

・秋月沙紀

秋月家四女。主人公から見て妹にあたります。

常に冷静で、めったに感情を表に出さないクールな



人間。知能がずば抜けていて、出来の悪い兄の家庭教師役。従って、妹にも関わらず、全く頭が上がらない。それどころか、個人授業では言葉責めで受け身一辺倒。妹とは名ばかり。その実、主人公のM部分をズバッと突いてもてあそぶのが上手な秋月家の影の女王様だったのです！

「…素直におなりなさい、おにいさま」

「今のおにいさまは—そう、言うなればわたしの下僕のようなものなのですから」

■せつかく4人いるのだから

キャラクター良し、コンセプト良し。しかし、『個人授業』を文字通り実現してしまったのが、多人数姉ゲー好きにはマイナスに映ってしまいました。

プロローグのあの楽しさが全体に渡っていれば傑作に仕上がっていたはず。嗚呼、これが『ボイン姉妹の**集団授業**』であったなら…！



しすたー★すきーむ

～お姉ちゃんとのシガタについて～

メーカー	M de PINK
ジャンル	あねもえアドベンチャー
発売日	2005年12月22日

主人公、安城崎人は、私立・清綾学園に通う学生。可愛い姉がいること以外、取り立てて特徴はない。

密かに同じクラスの勇美に想いを寄せているが、彼女は風紀委員の委員長。そのうえ姉の万里音が所属する新聞部と、校内の風紀を巡って対立していて、なかなか接近する機会がない。間に立つ崎人はどちらも気になりつつ、とりあえずは平和に、平穏な学園生活を送っていた。

だがそんな崎人の下駄箱に、ある日一通の封筒が届けられた。中には隠し撮りらしい万里音のトイレ中の写真と、折りたたまれた便せん。そこには、「おまえの姉の恥ずかしい写真を持っている。ばらまかれたいくれば、おとなしく指示に従え」と書かれていたのだった。その指示とは、「校門の前で姉弟でキスをして、証拠写真を撮れ」というちょっと不思議なもの。写真を公開されたくない万里音に泣きつかれ、困った崎人は従うことに…

しかし、それだけでは終わらなかった。無事写真を撮り終えた後も、次々と恥ずかしい写真と指示は届けられた。そのうえ、指示の内容はだんだんとエッチなものへとエスカレートしていく。

万里音を助けたいと思いつつ、勇美に片思い中の崎人は、誰かにばれたらとヒヤヒヤの毎日。それになにしる、万里音は可愛くてイロツぱく…まるで誘惑されてるよう。いつしか崎人は、お姉ちゃんにも惹かれ始め……!?

いったい、封筒の送り主は誰なのか？ 何が目的なのか？そして、崎人と万里音の危ない関係は、どこまでいってしまうのか———!!?

■scheme=計画、陰謀…?

「しすたー★すきーむ」、直訳すればお姉ちゃん計画…よりも、姉の陰謀と訳した方が正確か。と言っても、お姉ちゃんが企む陰謀ではなく、お姉ちゃんと弟が陰謀の標

的にされてしまうお話。トイレで盗撮した姉の写真ネタに、バラされたくなければ指示に従えと、謎の人物から命令が来て、姉弟でエッチな指示を実行して写真を撮れというもの。ここまで聞いて、「鬼畜と化した弟が嫌がるお姉ちゃんに無理矢理するのは、姉に従順を誓った総裁の趣味には合わんなあ」と早合点したのは大間違いだった！脅迫を受けて姉弟でエッチな事を、という流れはその通りなのですが、結構恥ずかしい指示にもお姉ちゃんは健気にこなして、弟も姉に出来るだけ嫌な思いをさせないようにと協力的。鬼畜的要素はほとんどなく、逆に100%合意のもとでドキドキ姉弟大作戦☆が実態の姉ゲーだったのです。

■かえってリアルな低テンション

謎の人物から手紙で指示される内容は、「校内でキスしろ」「お姉さんを着替えさせろ」のようなセクハラ的内容を姉弟で実行するもの。指示は徐々にエスカレートし、露骨に性的な内容になっていくのですが、これらに対する姉弟の拒否反応が妙に薄いのが面白い。姉弟でキスなんて絶対無理！みたいな反応がなく、お姉ちゃんは後述するように隠れブラコンなので嫌がる理由はないとはいえ、弟も姉ちゃんとキスするなど大して意に介していない様子なのです。これはあれか、姉弟でキスするくらい当然だよ、ってシナリオライター³の勝ち組意識

³ シナリオライターは非公開。

なのかッ!?

まあ、キスくらいは認めましょう。でも、パンチラ写真を撮った次の段階がいきなり「(姉に) 弟の性器をデッサンさせろ」。この指令に対し、美術部員の弟が冷静に姉にデッサンの講釈を垂れ、姉も割と落ち着き払って弟の大事な部分のデッサン一丁上がりってのは普通の姉弟なの…? あ〜、某ブラコン声優が、公にしていない弟との出来事とは、こういう内容のことなんだな(冗談です、多分)。

ある指令では、お姉ちゃんの最も大事な部分を弟が直接見てしまうことになるのですが、うおおおお、のような興奮をすることもなく⁴、他のギャルゲーで言うと脱衣所で姉ちゃんの脱いだパンツを見ちゃったレベルの興奮度。もちろん、ちょっとは盛り上がる描写もありますが、テンションが全体に抑え気味なのが、かえって「姉弟なんだから、あそこを見ちゃったくらいで照れや恥ずかしさが無い」ことをリアルに感じさせ、姉マニアには深い味わいとなって映ることでしょう。

■姉の想い×弟の想い

指令が来る→自宅で相談、練習、作戦を立てる→学校で実行、を繰り返しながらストーリーが進むこの作品。プレイヤーの期待に応えるように段々と過激な内容になっていくのを楽しむのがポイントの一つですが、姉弟の想いが近づいていく様を、過去の話も絡めて読めることにも要注目。

スタート時点での姉弟二人それぞれのベクトルを整理すると、姉の万里音お姉ちゃんは初めから弟一筋。そもそも、最初に盗撮されたトイレの写真は、弟を想って自分を慰めていた最中のもの(用を足している

だけのようにも見えるため、弟にはそうごまかしている)。そして、昔から今に至るまで、そしてこれからも弟のことが好きだと、にっこり笑って告白してくれます。……後半で。中盤までは、弟を愛してしまったことを表に出せないで苦悩する、姉の切ない気持ちが読み取れます。

万里音：おかしいって分かっていた。姉弟なんだから、普通はそんなこと思わない。

でも……私は、気が付いたら、サキちゃんのことが好きになっていた。

さすがに、この気持ちは…サキちゃんには告げられなかった。

私は姉。サキちゃんを惑わすことをしてはいけない、と解ってはいるけど……それでも……

(弟が) 他に好きな人が出来たって知ると、胸のざわつきはなかなかおさまらなかった。

くうう…なんという弟慕情! 姉は弟のことが好きと堂々宣言してもいいものだと思っている弟ほど冷水を浴びせられる万里音お姉ちゃんの戸惑い。姉弟間の恋愛は、本来は忍ぶ恋。だがそれがいい、と姉モノの原点に立ち返らせてくれる一節です。

一方の弟・崎人は、クラスメイトの風紀委員長に片思い中。姉が居るのにけしからん、とは言いません。結果的に風紀委員長は咬ませ犬になり、万里音お姉ちゃんに帰っていくのですから。それに、もともと彼はシスコンだった経歴があるのです。

崎人：僕はガマンが出来なくなって…姉ちゃんに、胸を触らせて欲しいって頼んだことがある。でも、その時は…姉ちゃんが拒んだんだ。泣き出しちゃって…周りのいじめっ子と同じだって。だから…僕は拗ねたんだと思う。姉ちゃんの誘惑に惑わされないように…僕は『姉貴』って呼ぶようにして、距離を置き始めたんだ。

こんな過去を持つ弟なので、最初は姉のことを「姉貴」と呼んでいます。普通、「姉

⁴ 弟の性格が、もともと感情を露わにしない大人しめのタイプということもあります。

貴」呼びをされる姉は、サバけた性格で気の強いタイプがほとんどなのに、万里音お姉ちゃんの性格はその逆。ちょっと違和感のある呼び方をしていたのには、ちゃんと理由があったのです。一概に「姉貴」呼びが距離を感じさせるとは言えませんが、「お姉ちゃん」と口にしていた弟が姉離れを意識して「姉貴」と呼ぶようになったというのはなかなか説得的な展開で興味深い。

もちろん、そんな弟の変化をお姉ちゃんは内心寂しく思っていて、また昔のように「お姉ちゃん」って呼んでもらいたい気持ちがあくすぶり続け…

万里音「だったら……ちゃんと『お姉ちゃん』って呼んで欲しいな。」

崎人「……へ？」

万里音「お姉ちゃんにお願いするんでしょう。だったら…他人行儀に『姉貴』何て言わないで。」

(中略)

万里音「これから、お姉ちゃんにお願いする時は『お姉ちゃん』って呼ぶんだぞ。」

と、お姉ちゃん強権発動。

これら一連の『姉貴呼び廃絶闘争』とも言うべき流れは、こそばゆい気持ちで一杯になるので、是非じっくりと楽しんでいただきたい。

■キャラクター

・安城万里音

優等生的なお姉ちゃん。実際、学園でも優等生。アクの強い性格や特徴的なクセはなく、優しく綺麗なお姉さんで、万人に好かれるタイプです。言い寄る男子も数多いが、色恋方面にはあまり積極的ではない…のは、もちろん可愛い可愛い弟の存在があるから。

そう、言うまでもありませんがブラコンお姉ちゃん。先に述べたとおり、いつの間

にか弟のことが好きになっていた自分に戸惑い、それを相手に打ち明けられない苦しさに悩む姉。だからといって、想いを隠そうと強気なツン態度をとる姉ではなく、普通に仲の良い姉でいようと自分を抑えている、そんな風に総裁の目には映りました。

だがそれも、次々に出される脅迫状のエッチな指令をこなすうちにだんだん抑えが効かなくなり、弟を振り向かせることに成功してからはリミッター解除。恋する乙女も裸足で逃げ出す、姉弟愛に燃えるブラコン姉が登場。今まで禁じていた想いを素直に言えるようになり、弟とともども一層幸せそうな顔を見せてくれます。

ところでこの万里音お姉ちゃん、控えめで自己主張の少ない性格が基本ですが、時折見せるぷくぷくと膨れて拗ねる態度や、気にしている大きめのお尻のことを弟に言われると怒りだす所はやはり「姉」だなあと思わせてくれます。普段は弟を尻に敷くような姉でなくても、ここぞという時に「お姉ちゃんの言うことが聞けないの？」と姉の威厳を見せる。これ、大事な要素です。

■結局、中心テーマは「姉と弟」

姉のいない総裁なんぞは、想像しただけでクラクラする姉弟でのエッチな指令を、大げさにとらえずに着々とクリアしていく安城姉弟の姿にまずビックリ。実はこれが世間の姉弟のスタンダードなの？認めたくもあり、認めたくなくもあり。

全部で約 10 件の指令それぞれのイベントも面白いのですが、姉の秘めたる想いが徐々に表に現れていく様子、弟が今再びシスコに戻って行く過程がシナリオの柱となって支えており、中心テーマが「姉と弟」であることを強く印象づけてくれます。

状況設定で特殊な面もあるものの、姉ゲーとしては安心してプレイできるお薦めの作品でした。

COMING SOON!!

『アットホーム・ロマンス』第2巻 (風華チルヲ/芳文社 KRコミックス)



ブラコン姉×マザコン弟のドタバタ過剰家族愛4コマ『アットホーム・ロマンス』の第2巻が2008年8月27日発売予定。



Morimura Akiko
At Home Romance

家を出てしまった暁子姉ちゃんが弟恋しさにじたばたする姿、姉を追い求め家に呼び戻す竜ちゃんの姿など、1巻からストーリーも大きく展開！暁子姉ちゃんのブラコンパワーは不変。むしろパワーアップ。2008年夏、時代はリアル姉ごっこへ。

全姉連的に楽しむポイントは、『Radio SchoolDays』のスーパー弟タイムにインスパイアされたネタを探すこと。どんだけ河原木さんにお世話になってるんだよ…と思ったら、遂に河原木さんご本人による帯のコメントまで勝ち取ってきてしまいました。マジで！？今やリアルブラコン声優公認の4コマ漫画です。

なお、カバー下の企画は第2巻もかなり気合いが入っている模様で、かのタカヒロ氏が、あの鳥類系ブラコンお姉ちゃんを引っ提げてご登場とのこと。業界の壁を打ち破り、今ここに夢のブラコン姉対談が実現する！

『Kiss×sis(キスシス)』アニメ化 (ぢたま某/別冊ヤングマガジン連載)



ついに、「弟にキスしちゃダメですか」漫画、『キスシス』のアニメ化が発表されました！

苦節4年。隔月刊のマイナーな別冊ヤングマガジン誌にひっそりと連載が開始され、こんなキス魔のブラコン双子お姉ちゃん漫画なんて我々しか読んでないんだろうなあとと思ったら、単行本第1巻・第2巻ともバカ売れだったようで。

製作サイドの思惑は、過激な寸止めエッチで受けを狙うつもりなのかも知りませんが、仮にそうだとでもあこ姉りこ姉のスーパー弟ちゅっちゅタイムは避けられないという仕様。お姉ちゃんが弟を愛するのって、こんなに普通で、こんなに素敵なことなんだ！と世間に知らしめる絶好のアニメです。

これが果たしてテレビ放送可能な作品なのか不安ですが、「姉と弟のべろちゅーシーンはダメ」「お姉ちゃんのおしっこ後、弟が拭くシーンはダメ」「お姉ちゃんの大事な毛を弟が抜くシーンはダメ」という話は聞いたことがないし、多分大丈夫でしょう。



Suminoe Ako & Riko
Kiss×Sis

『全姉連会報』 ⑨巻発行おめでとうございます！！

光栄なことに、今回のカラー表紙を描かせて頂きました。

「姉月憫（あねづきしのぶ）」です。たった今決めました。（笑）

前号までの表紙を参考にしようと拝見し、その高水準さに正直、激震が走りました。これは……胃が痛い！と。テーマが「姉」でなく、「川のせせらぎ」とかだったら心が持たなかった。良かった…。テーマが「お姉ちゃん」で本当に良かった…。

今回描かせていただいた3人のお姉ちゃん達は

- 赤基調が【しすたー・すきーむ】の安城万里音お姉ちゃん。
 - 青基調が【影ニ光（シャドウ・ライト）】の星之宮御影お姉ちゃん。
 - 黄基調が【君が主で執事が俺で】の鳩ねえこと、上杉美鳩お姉ちゃんです。
- みんな「弟大好き」な素晴らしいお姉さん達なので、描いていてとても楽しかったです♪

「技術」が拙い分、姉達への「想い」を込めることを第一に描きました。心地良いプレッシャーのお陰で、実力以上のものを仕上げられました。特に「着色」作業は、困難と発見だらけで、ひたすらに楽しかったです！まるで童心に帰ったようでした！純粋にもっと精進したいです♪

こちらのグレーイラストは、「姉月憫」が先日描き上げた初完成漫画のメインキャラ（姉弟）です。持ち込みとか次回作とが、スゲー人生に燃えてきました！！凄い…。これが「お姉ちゃんパワー」か…。「友情パワー」に匹敵するぜ！！お姉ちゃん達、ありがとっ！！

最後に、このような貴重かつ素敵な機会を頂けたことを、心から感謝しています！！
総裁さん、本当にありがとうございます！！
これからも応援していく所存です！！
そして…
今これを読んで下さっている、
（その時点で限りなく心優しい）
「同志」である弟様方、これからもずっと、お姉ちゃんを大切にしていきたいと思います！！

この度は本当にありがとうございました！！（笑）



ボク頑張ったよ、お姉ちゃん！

夏休みの宿題の読書感想文が嫌いで、今もあまり読書の習慣のない総裁が、ただひたすら読んで書き、読んで書き。これはもう天からお姉ちゃんが3人は降ってくるレベルの善行です。

姉ノベル特集は以前から実現したい企画だったのですが、実は今期（2008年上半期）姉ゲーが思いのほか少なくて困っていたという裏事情もありました。

手の平に乗る、お姉ちゃんと弟の愛の巣。1冊680円で約3時間の濃厚お姉ちゃんタイム。今までないがしろにしていた姉ノベルの実力を思い知りました。

今号の表紙と挿絵（p.24）、ゲストページを描いて下さったのは姉月僣さんです。どうもありがとうございました！

姉月さんは2007年末のコミケ会場でイラスト年賀状（全姉連2008年1月1日付け記事に掲載）を手渡しして下さい、それが縁で今回お願いする運びになりました。私も一目置くほどのアネスキーな方で、表紙の依頼にも快く応じて下さり、大好きな姉が描けてとても楽しかったとのこと。姉月さんは姉漫画にも挑戦されていて、今後どこかで目にする機会があるかも知れません。

では、また次号でお会いしましょう！

全姉連会報 第9号

発行：全姉連 総本部

発行日：2008年8月17日

著者：全姉連総裁

連絡先：so-sai@zenaneren.org

表紙：姉月僣様

印刷：株式会社ユリクリエイト様

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>
(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。ここに敬礼申し上げます。

If I didn't have an elder sister,

I wouldn't be alive.

If I wasn't a younger brother,

I wouldn't deserve to be alive.

全姉連 総本部

-the world's largest organization of elder sister geeks

www.zenানেরen.org